

積雪とハクチョウの渡来数

本 田 清

1980年来から1981 2月ころにかけて東北・北陸地帯などを襲った寒波と豪雪は、例年のこの時季の渡来ハクチョウの分布地図を大幅にぬりかえた。

本州内陸部最大の渡来地といわれる伊豆沼・内沼(宮城)は、前年度1月中旬の観察数が3,800羽を超えていたのに対し、当該年の同期では、

2,154羽で前年度より44パーセントの減、またコハクチョウ群渡来地南限として知られる中海南岸(島根県)では、前年度の同期227羽に対して、わずかに24羽を数えるに過ぎず89パーセントもの減、また同様コハクチョウの内陸高地渡来地として知られる猪苗代湖でもやはり前年同期の619羽に対し420羽という程度で32パーセントの減であった。

当初この渡来数の減少傾向は、渡来地周辺の開発などにともなう環境の変化にあるのではなからうかとしているところもあったが、それだけの理由では説明のつかないことが、つぎに述べる経過からも次第に明白になっていった。

いったい、この時季、豪雪の渡来地を避けて数の減った分のハクチョウたちは、どこへ行ったのであろうか。

普通、このような場合、「群れの南下散開」というパターンが考えられるわけだが、この年は少し違っていた。

1980年12月から1981年1月、この時季、南下集団の主流のひとつともいえる相当数は、新潟県内の各渡来地に集結していたのである。そ

の理由は次に述べるようなことではないかと思う。

よく知られているように、新潟県の蒲原地方は、長江信濃川と阿賀野川の沖積が形成した本州唯一の水田地帯が広がっている。この地域には図1・2・3・4に示すように、古来からのハクチョウの渡来地として知られる佐潟(38.2ヘクタール)をはじめ、新潟市街に接している鳥屋野潟(180ヘクタール)、それに干拓残存湖としての福島潟(234ヘクタール)など合計すると452ヘクタールもの潟湖がある。いずれも鳥獣保護区または銃猟禁止区域に指定されており、自然餌としての水生植物の生育状態もよい。また、わずか8ヘクタールの人造の貯水池ながら、戦後、渡来ハクチョウの餌づけの成功で有名になった瓢湖もこの一角に存在しており、この時季は、おしなべて渡来数が多かった。

例年のこの時季、この付近一帯には1,200羽ないし1,500羽程度のハクチョウが渡来していることが確認されているが、この年の同期には、ほぼ2倍の2,800羽を数えることができたのである。これは過去に例を見ない大量増加であった。

この年、新潟県内は、一般的にいえばたしかに豪雪といえる状況であったが、いわゆる山雪型で、里雪型ではなく、ハクチョウの渡来する平場地帯は、平年なみかそれ以下であった。とくに海岸線に近い水田地帯は積雪が少なくハクチョウが自然餌をあさる条件に適していたのである。

ちょうどこのころ、1月11日の定時定点調査では、下越地区の主要な渡来地である福島潟・瓢

湖・鳥屋野瀉・佐瀉とその周辺だけでも 2,200 以上を数えることができたが、追って1月15日に実施された環境庁恒例の「ガンカモ科鳥数の生息状況調査」の結果では、新潟県内三十カ所の渡来ハクチョウ数総数は 2,690 羽であった。このうち貴重性の高いといわれるコハクチョウが、1,559 羽と全体の 58 パーセントを占めていたことは特筆されるべきことである。このことは当然のこととはいえ、豪雪によって渡来数の減った前記伊豆沼・中海南岸・猪苗代湖などの渡来地が、本来コハクチョウの多い渡来地であったということととちゅうど相対する関係において整合し説明できる点である。また同時調査による天然記念物のヒシクイなどのガン類の渡来数も、前年度の860羽から一挙に 2,460 羽と約3倍増になっていたという結果とも合わせ、新潟県内の各渡来地が冬の渡り鳥にとって、伊豆沼や猪苗代湖（いずれも

水鳥の渡来地として国の天然記念物指定地）などの渡来地とともに欠くべからざる重要な渡来地であることを証明しているように思う。

同年3月に入ると、今度は新潟県内の各渡来地の渡来数は減っていき、伊豆沼や猪苗代湖などの渡来数は例年なみに回復していったのである。

*その後、四月26日*浜頓別*研修会で、同地のポロ沼とクッチャロ湖で 5,200 以上のコハクチョウをカウントしたといわれる。この数は、例年の環境庁の一せい調査において観測されている約 2,500 羽の2倍以上という予想外の数値である。本州において観測されなかった、まぼろしの2,500羽は、いったいどこからきたものなのだろうか。朝鮮半島か、または、観察態勢のあまきによるものか。今後の究明がまたれる。

新潟県における 積雪分布と根雪期間 (最近50年平均)

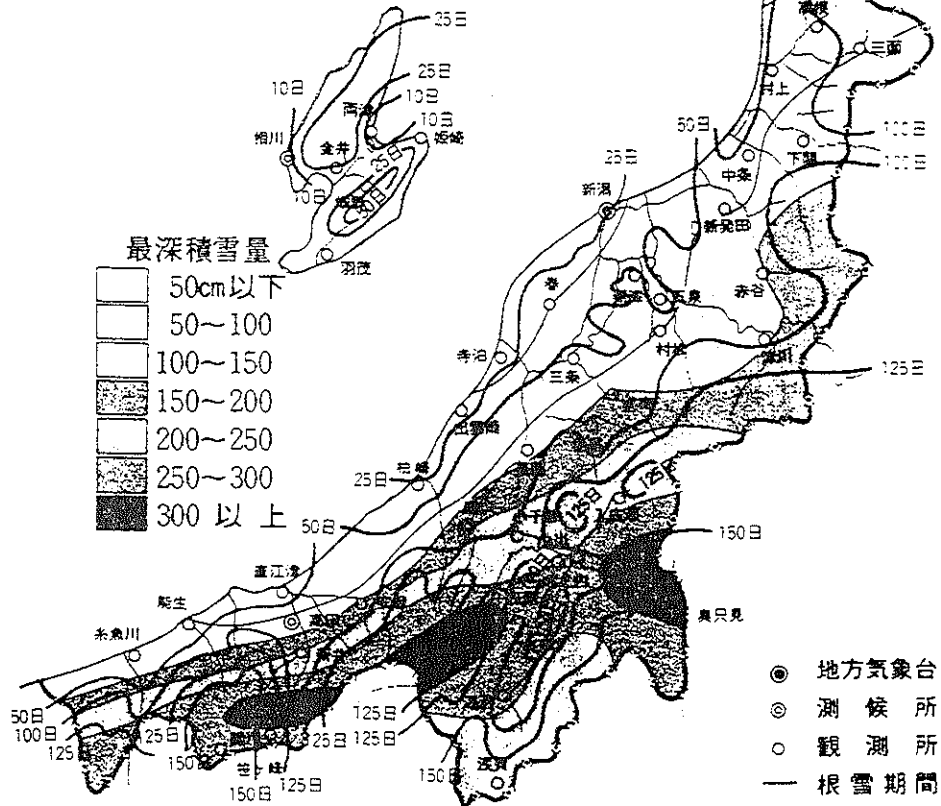
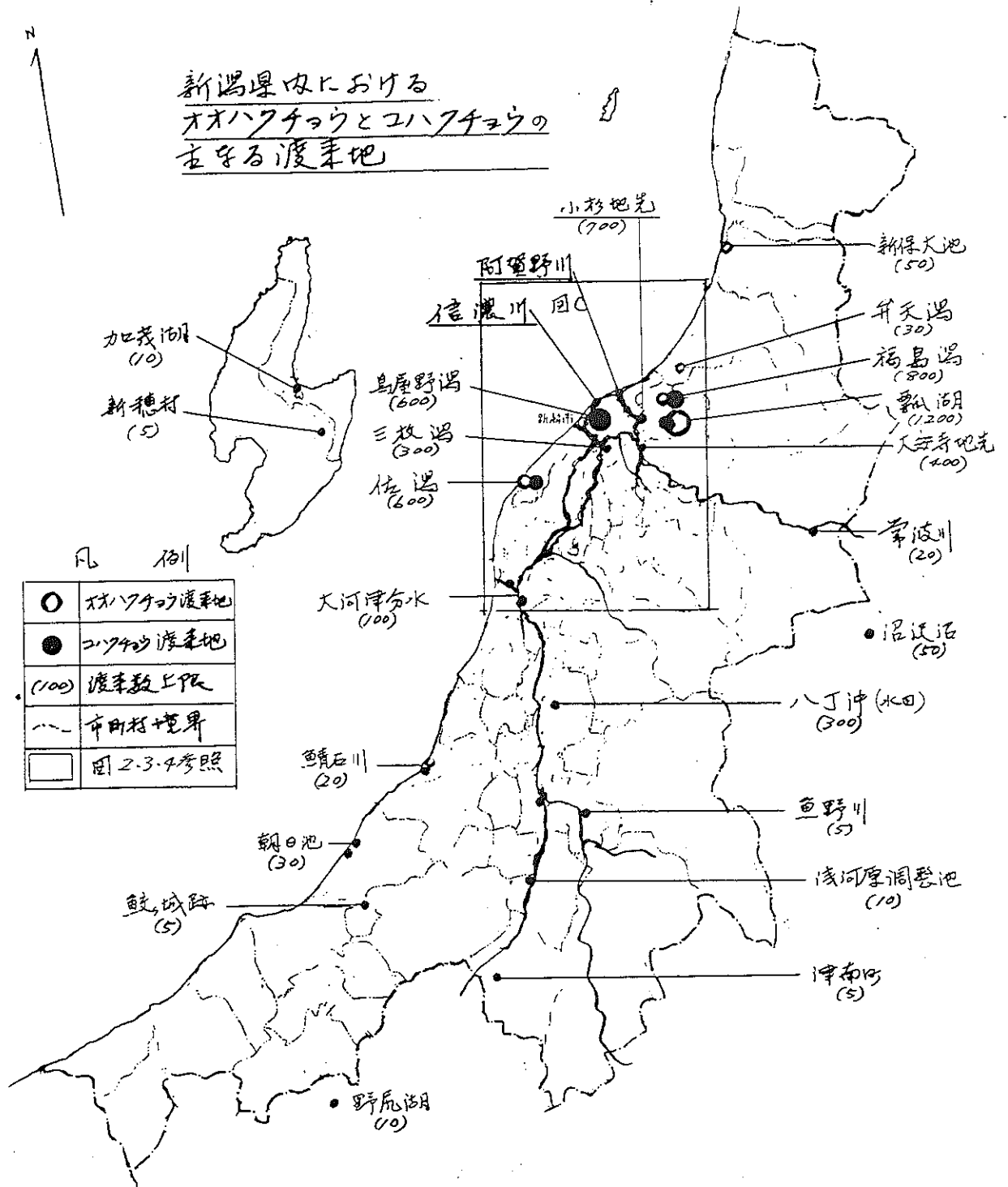


図1



80万分の1

図2

新潟市近郊 (渡来初期・10月~11月)
 信濃川・阿賀野川沖積地帯における
 オオハクチョウとコハクチョウの
 主たる定着地と採餌地

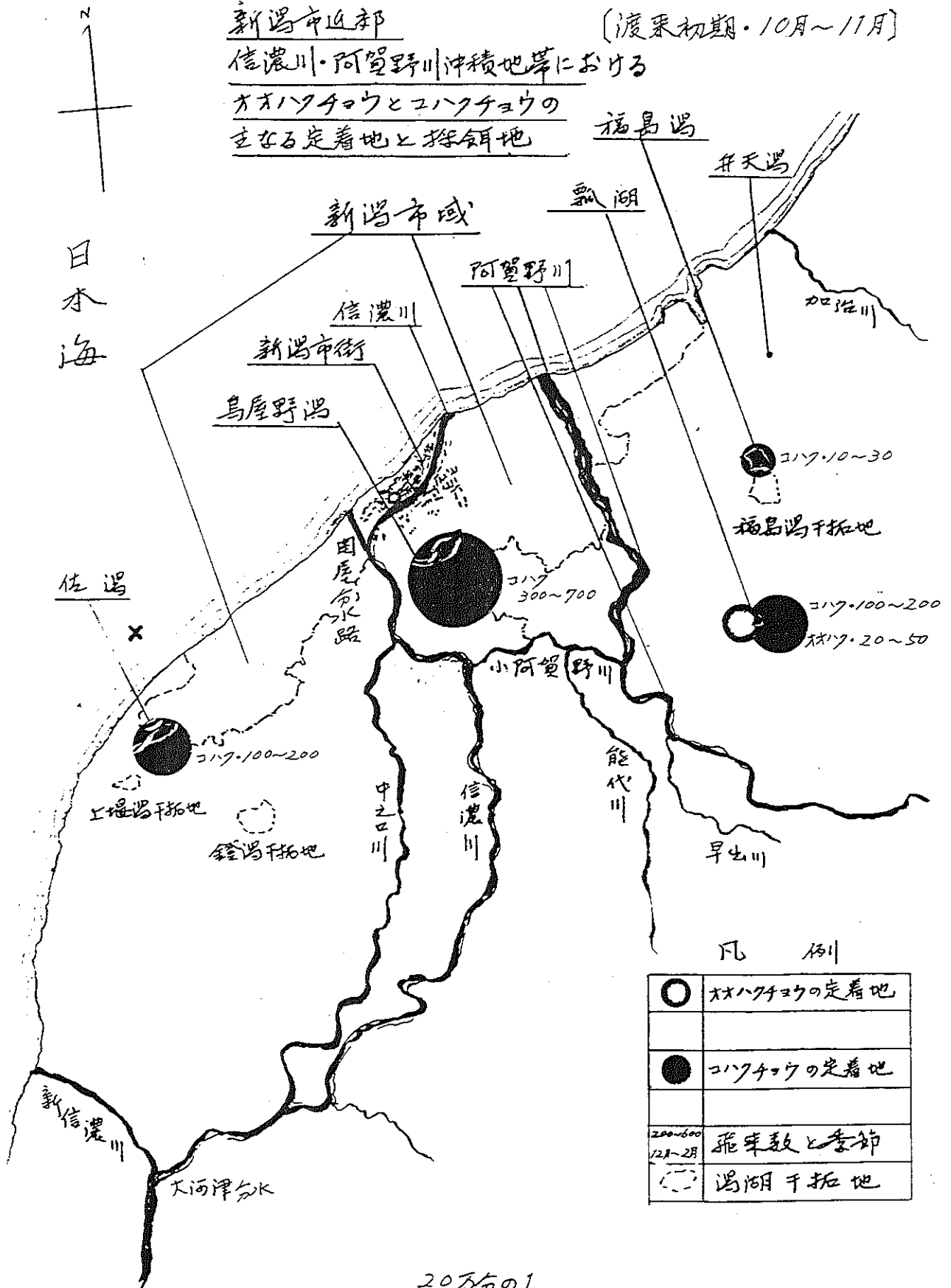


図3

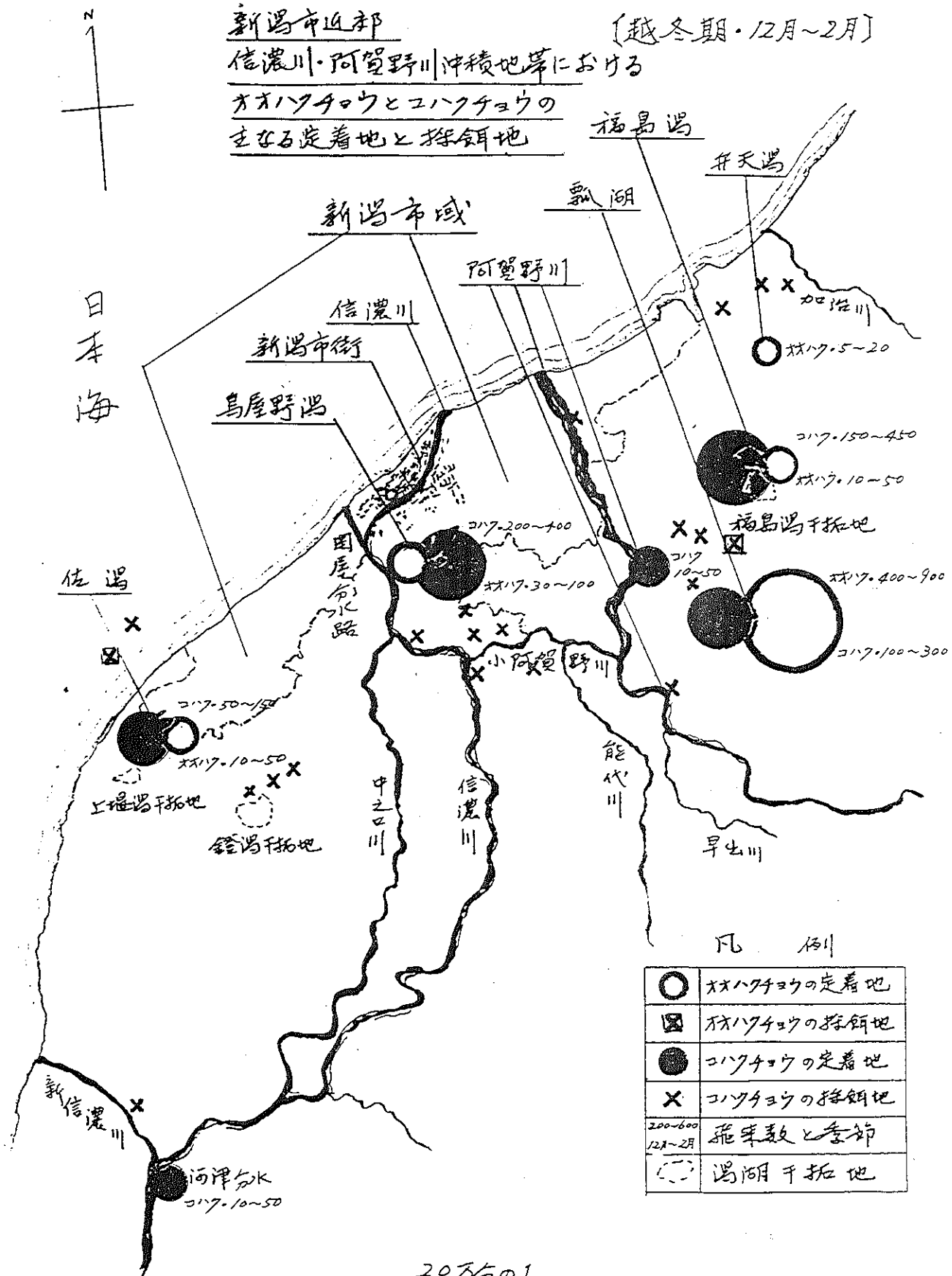


図4.

